

# 平成30年度青森県（青森地域）地域医療構想調整会議

## 【議事要旨】

日 時 平成30年9月19日（水）午後5時～午後7時

場 所 ホテルクラウンパレス青森3階「奥入瀬」

### （1）報告事項

#### ①地域医療構想等の進め方等

#### ②平成29年度病床機能報告の結果

事務局から、①について資料1、参考1、参考2、参考3、②について資料2-1、資料2-2、資料2-3に基づいて説明。

質疑はなかった。

### （2）協議事項

#### ①病院の機能分化・連携の方向性

#### ②地域医療構想の実現に向けた病床の有効活用

事務局から、①について資料3、②について資料4に基づいて説明、案件ごとに意見交換を行った。

#### ①病院の機能分化・連携の方向性

##### ○青森県立中央病院

・全県を視野に入れた高度急性期、専門医療、救急医療を担っていくという方針に変わりはない。

・地域連携の支援を掲げているが、あおもりメディカルネットを使い、地域医療との関わりを深めていっているところである。

・我々のような急性期医療を担う病院には、回復期機能を含めた後方病院の確保が必要であるので、回復期病床を有する病院との連携を更に深めていって、病床の回転をよくしながら急性期の治療を継続していくつもりである。

##### ○青森市民病院

・救急医療については、救急搬送数は多少、減少しているが、その中の入院の割合は増加している。

・入院患者の重症度、看護必要度等、大きな変化はないので、このまま急性期中心の医療を維持していきたいと思っている。

・高齢者あるいは慢性期患者の急変等の患者が増加しており、地域連携の観点からも、現在の急性期機能を維持していく必要があると考えている。

・医療需要に見合った病床数の検討については、新たにプランを策定し、その中で休棟中

の47床を含めた79床を返還して、538床から459床に病床数を削減することとしている。

#### ○浪岡病院

- ・院舎の老朽化や地域医療構想を踏まえ、病床規模及び機能の見直しを行ってきた。
- ・院舎の建て替えについては、平成33年4月の開業を目指して建て替えを行うとする内容を含む新浪岡病院建設基本構想を今年度4月に策定し、この中において、新病院の規模及び医療機能につき、一般病床を92床から35床とし、精神病床107床を廃止する。診療科は現在と同様に、内科、外科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、精神神経科を維持するとしている。
- ・在宅医療の需要に対応するため、訪問看護及び訪問診療の充実を図り、浪岡地区の地域包括ケアシステムの中核として役割を果たしていくこととしている。
- ・一般病床の削減及び精神病床の廃止については、新病院の開業を待たず、この10月から行うこととしており、今月中の届出を予定している。
- ・訪問診療については、今年の5月から開始している。今までの実績は、自宅へ2名、施設にいる方を8名、計10名の患者に対し、42回の訪問診療を行った。

#### ○平内中央病院

- ・病床が90パーセント代で稼働していることから、病床数の削減は考えていない。
- ・病床機能について、平成28年度に補助金を受け、回復期を増やしているが、さらに、今年度も慢性期を8床減らして、回復期を8床増やしている。
- ・在宅医療（訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ）は以前からやっているが、引き続き地域の需要に応じていきたいと思っている。

#### ○外ヶ浜中央病院

- ・医療連携相談室を3年ほど前から強化し、病病連携が進んでおり、県立中央病院をはじめ、市民病院、そして新都市病院との間でスムーズに輸送ができているということで大変感謝している。
- ・資料では、一般病床数が48床と記されているが、今年の4月1日から病床数が44床に変更となっている。
- ・一般病床は満床でも経営的に楽ではなく、包括ケア病棟への転換を望んでいるが、廊下はかなり狭く、建築基準を満たさないということで、検討委員会等を6月に立ち上げ、大規模改修が良いのか、それとも新築移転が良いのか、方向性を検討している。

## ②地域医療構想の実現に向けた病床の有効活用

#### ○青森厚生病院

- ・この4月に療養病棟113床のうちの58床を地域包括ケア病棟に転換したところであり、現在、病院全体としては、急性期と地域包括ケア、それと療養という、3つの機能

を持った形となっている。

・休止病棟につきましては、本会議で得た情報を踏まえ、法人の中で今後、休止病床の方をどのようにしていくか、早々に結論を出していかなければならないと考えている。

→（吉田アドバイザー）

外ヶ浜中央病院の一般病床から包括ケア病床に転換したいとお話ですが。資料の4にあるように、県で補助金を用意しているようなので、積極的に相談した方が良い。

### ③公的医療機関等2025プランについて

策定の対象となっている国立病院機構青森病院から資料5に基づき、プランに関する説明があった。

質疑応答はなかった。

### ④平成37年（2025年）に向けた病院の対応方針の協議について

事務局から資料6に基づいて説明を行った。

質疑応答はなかった。

## （3）その他

### ①在宅医療等の確保の方向性

### ②基金を活用した補助制度

事務局から参考4、参考5に基づいて説明を行った。

#### ○青森市歯科医師会

・直近の会員へのアンケート調査において、30～40名、程度の差はあるが、在宅往診に協力できる状況にあるという結果を得ている。

・ケアマネージャーと定期的な研修の場を持っており、口腔ケアに興味を持ってもらうことが大事ということで、まずは見てもらう活動をしている。

・歯科の特殊性であるが、教育機関において、寝たきりの状態の患者への歯科診療を行うことが、大学教育の中で行われるようになったのが、最近のことで、40代後半以上の先生方は、患者は座っている、もしくは寝ている状態であっても、それは健常者の方の口腔内の治療という前提で教育を受けており、これまでの経験もそのようなことが中心になっており、有病者でなかなか起き上がれなく誤飲、誤嚥が起りやすいような状況の中で治療することを積極的に、強力的に進めていくというわけにも、なかなかいかない実情がある。

・歯科疾患等が起きる前の予防の部分で効果があるので、無料の高齢者への健診制度等を所管する行政には、疾患が生じる前段で我々歯科医師会に御相談いただければ、我々も行きやすいので、御理解いただきたいと思う。

○南黒歯科医師会

・当会独自に何か行っているということはないが、訪問歯科診療は、20数年前から変わることなく続けている。

○青森市薬剤師会

・基金の補助を受けて、訪問薬剤管理指導を実施した経験のある薬局、薬剤師が未経験者に同行して訪問するお試し訪問という事業を実施し、体制の基盤づくりを行っている。  
・地域包括支援センター主催の研修会に各薬局が月1回は参加して、情報交換など、在宅の受け入れ体制の基盤づくりを行っている。

○青森県看護協会

・訪問看護の充実に向け、研修等を行っており、訪問看護師の育成という観点から在宅医療の充実に関心している。

(吉田アドバイザー)

・地域医療構想の実現に向けては、地域内で医療を完結させるための「連携」が絶対に必要で必須である。  
・急性期の病院から患者を回復期病院に送っていかないと、急性期としては、例えば、10日とか11日の在院日数でキープすることはできない。  
・急性期の病院における在院日数が長くなると、急性期の病院は経営効率が悪くなる。  
・逆に急性期の病院から患者が送られてこなければ、回復期の病院は患者が来ないので、そこも非効率になる。  
・よって患者をパスし、完結することによって、それぞれの病院の経営が成り立つのが地域医療構想なので、やはり連携という視点を外すと、議論が全然進まなくなってしまい、このままじっとしていると、皆、共倒れになるのではないかと危惧している。  
・医療を受ける患者の層が変わることで、若い人が減り、急性期の患者が減る。今後、高齢者の医療が物凄く増えて、在宅見取りを含めて、そういった患者に対してどうやってアプローチしていくかということも大きな課題であり、孤独死するとか、どこかに行ったら気が付いたら死んでいたみたいな話になってきても具合が悪い。そういった高齢者に対する医療をどうするかという視点も非常に大事な話になる。  
・今までの経営モデルにこだわらずに、やはりチャレンジングな方向性を出していくのがこの会議の意味ではないかなと思う。  
・本格的に構想実現に向けた議論が始まったばかりなので、どういう方向に行くか、皆さんも私も含めて分からないが、少なくとも、やはりこれからは連携、どういうふうな形で、例えば、病院同士で連携していくかということも議題として挙げられたらいいのではないかなと思った。

(村上アドバイザー)

私も青森地域で病院を運営している一方で、県の医師会をお手伝いし、そして、また、全日本病院協会の青森支部長もお手伝いし、老人保健施設協会青森県支部もお手伝いしているところである。

その経験から、今、国が何故、この地域医療構想なのか、調整会議なのかということをも十分に考える必要があると思う。

先ほど、吉田先生が説明したが、これは、やはり医療費の削減とベッド減らしということに他ならない。

一番の問題は、高齢な方々が多くなり、若い方々が急性期の、今までどおりの患者さんでなくなることである。若年層が減り、高齢者が増え、そして全人口が減る流れに合わせるには、ベッドを減らす必要がある。

そして、このような大事な話をするとき、公的病院は、先生方がお見えになっているが、私的な病院でオーナーがおいでになっていないところが大分ある。患者さんが亡くなる前に病院が潰れないようにしていただきたい。そこをやはり皆で考えなければならない。

病院の連携、あるいは病院同士、病診の連携、診療所との連携、あるいは、在宅医療との連携。これは途中の経過であり、最終的には診る患者さんもおなくなるような人口減少が来るわけで、それに対する対応というのは、私立の病院の方が先にやらないと大変なことになる。

○青森市医師会長

- ・在宅医療を提供するためには入院のための設備が必要と考えるが、私の身の回りの地域、青森の東側の、目の届く範囲では、この10年くらいの間で個人の医療機関が持っていた入院のベッド、約100床が、無くなっている。
- ・会員は、皆、在宅医療の重要性は十分認識しているわけであるが、今、急速にそれが普及するという状況にもないだろうというように思っている。
- ・在宅医療や認知症に関して、基幹病院の地域医療連携室が果たす役割は大きいと実感している。

#### (4) 意見・質問等

○青森県立中央病院

- ・有床診療所の役割が大きいと考えるが、今後どのような議論を行っていくのか。
- ・青森地域で500を急性期から回復期に転換が必要とされているが、その内の半分は有床診療所が占めている。必要病床数への収れんに向けた計算をする際に、ここの部分を急性期とカウントして我々は進めていくのか、それを診療所の機能に合った病床として把握していくのかが見えてこない。
- ・プロフィールシートの作成も病院に限定しており、診療所の意向は見えてこない。
- ・有床診療所の今後の方向性もきちんと把握した上でないと、地域の全体像が描けないと思う。

→ (事務局)

・2025年が地域医療構想の目標年ということになっており、それに向けて順番というわけではないが、まずは病床数が多く地域医療の主要な部分を担う病院の機能分化を先との考え方が国にあると思う。

・地域医療構想の推進は、医療機関の自主的な取組、圏域の中で様々な情報を共有した上で、各医療機関が自分たちの担っていくべき機能を判断していただき、最終的に2025年に向けて収れんされていけばよいというのが基本的なスタンスになるので、そういう意味では、いずれ有床診療所も、方向性について議論する時がくるとは思うが、今のところ、進め方として、まず病院からというように思っている。

→ (村上アドバイザー)

・有床診療所のベッドは、1診療所あたり19ベッドとされているが、ある意味で既に抑えられてしまっている。

・在宅医療、あるいは産科、小児科に使用するのは、特例ベッドとして認められるが一般ベッドではなく、急性期の患者を扱うようなベッドにはならず、いずれ有床診療所のベッドはなくなると考えられる。

○青森県立中央病院

・診療所の状況をきちんと把握することにより、裾野をきちんと整えないと、なかなか病院の機能も定まらないのではないかと、また、地域医療の一番基礎にある開業医の先生の意向が、見えていない部分があると思ってお聞きしたところである。

→ (村上アドバイザー)

・書き物としてある訳ではないが、国では、有床診療所をなくす方向で考えているのではないかと思う。病床を開設するために医療審議会の意見を聴かなければならないということは、実質的に新規開設はできないことに等しい。

○平内中央病院

・青森地域の自治体病院再編はどのように考えているのか。

・また今年の春先に一部新聞報道がなされた平内中央病院、野辺地病院、七戸病院の統合について、圏域を越えての再編というのもあり得る話なのか。

→ (事務局)

・平成28年3月に策定した地域医療構想の中では、基本的には6つの圏域全てで再編ネットワーク、特に自治体病院を中心とした再編・ネットワーク化を進めていくというふうに記載しているが、圏域によって、気運の熟し度合いの違いや、過去の歴史的なものがあるので、進め方に温度差はある。

・圏域を越えての再編、先ほどの野辺地とか七戸の例であるが、あり得る話ではあるが、仮に進めるとなったとしても、地元の考えが重視されるべきだと考える。

・先ほど来、話が出ているように、人口減少に伴って、患者自体が減っていくのに加え、

疾病の構造的なものが変わっていくというので、公立病院に限定した話として、現在の病院が、そのまま残っていくということは、非常に考えにくいし、そうした場合、病院を開設する自治体の財政負担も大きくなっていくと思うので、再編・ネットワーク化という方向性は必要であるが、やはりそこは、地域の住民や医療関係者の考え方というのか、そういった気運というのも重要になると考える。